



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

R02/11
24号

地域医療機関との連携強化に向けて



病院訪問の様子

■ 地域の中核病院としての役割を

当院は、平成20年に地域医療支援病院の承認を受けています。地域医療支援病院は平成9年の医療法改正で創設されたもので、医療資源が限られる中、地域の医療機関が連携・役割分担し、患者さんに最適な医療を提供できる体制を構築することを目的としたものです。

■ 連携強化に向けた活動

地域医療機関との連携強化に向け、当院では次のような取り組みを行っています。

▶ 連携病院への訪問と情報提供

院長をはじめとする医師、看護師やソーシャルワーカーによる病院訪問で情報提供を行い、スムーズに連携が図れるよう取り組んでいます。

▶ 医療者同士の交流機会の拡大

医師会と共催している地域医療連携会や医療・介護連携交流会、診療科毎の症例検討会、地域医療機関での災害医療講習会などを積極的に開催し、連携を深める中で最新の情報の共有化を図っております。

▶ 共同診療の推進、連携パス運用など

当院に入院後の共同診療を行っていただきやすいように環境

を整え、連携パスの運用も推進していきます。

▶ 地域医療関係者の要望把握、改善

患者支援センター職員によるヒアリング、連携医対象のアンケート調査実施、地域医療連携運営委員会における郡市医師会からのご意見を伺うなどして、連携強化に役立っています。

■ 紹介患者さんを増やす取り組み

当院の紹介率は近年上昇傾向ですが、逆紹介率は目標数値に至っておりません。入院された患者さんのうち、紹介による患者さんの割合は約40%です。連携医療機関の信頼を得て、より多くの患者さんを紹介していただけるよう、以下を目標としております。

(1) 逆紹介の徹底

ご紹介いただいた患者さんの病状が安定後は、紹介元の先生へ逆紹介し、バトンタッチする。この流れがスムーズになるほどお互いへの信頼感が構築され、患者さんの負担減にもつながります。そのため、逆紹介をさらに徹底するよう努めてまいります。

(2) 顔の見える関係づくり

連携医の先生より紹介をいただく理由としては「患者さんの希望」が最も多いですが、「医師同士の関係性」も紹介理由の大きな割合を占めています。患者支援センターと協働した医師による病院訪問などで、連携医の先生と当院の医師との間で顔の見える関係を作り、医師同士の連携も強化してまいります。

(3) 適時・適切、丁寧な情報提供

紹介時、逆紹介時だけでなく、手術結果や検査結果など、紹介医の先生の要望に添う情報を適切に提供できるよう心がけています。

(4) 連携医療機関の要望に応える努力

救急患者の受け入れを始め、日頃の診療過程の中で、連携医の先生からの意見や要望が聞かれるケースがあります。病院として誠意をもって対応するよう努めています。

内藤 佐和子市長、市民病院を視察

10月19日、内藤 佐和子徳島市長、久次米浩文第一副市長が視察のため来院されました。

内藤市長一行は、安井病院事業管理者よりコロナ禍での当院の現状等の説明を受けられた後、院内を視察。柿内内科主任医長から感染症対策などについて詳しくお聞きになりました。

市長からは、「医療現場の最前線で対応していただいている皆さんには、大変なご苦勞をおかけしておりますが、本当に感謝しています。新型コロナウイルス感染症に関しては、まだまだ収束の見通しがつきませんが、引き続きよろしくお願ひします。」との慰勞、激励のお言葉をいただきました。

最後に救急外来を視察され、発熱している救急患者の受け入れ手順についてご確認いただきました。

これから季節はインフルエンザが流行する冬場を迎えます。そのため、感染症対策として発熱患者の待合室となる



柿内内科主任医長より感染症対策について説明を受ける内藤市長

コンテナハウスを設置し、サーモグラフィー等も導入予定であることをお伝えすると、熱心に頷いておられました。

サーモカメラ設置

10月30日、正面玄関と救急入口にサーモグラフィーカメラ付きディスプレイが設置されました。

複数人の体温を同時に検出して表示することができ、37度を超えているとアラートを発します。該当者には職員が改めて検温し、発熱が認められる場合は病院側の指示に従っていただきます。

インフルエンザの流行を見据えて検温業務の負担を軽減しつつ、徹底した安全管理をしていく上で心強い味方となりそうです。



発熱患者待機用コンテナ設置

当院では4月より、発熱や自覚症状から新型コロナウイルス感染が疑われる患者の待合について、救急外来待合室をパーティションで区切り対応してきました。

かねてより感染疑い患者専用の院外待合室設置が求められており、11月9日に救急・時間外入口わきの屋外に簡易待合室（コンテナハウス）が設けられました。

室内は25平方メートルです。冷暖房設備に加えて、内部にHEPAフィルター付き空気清浄機が設置されています。室内の防犯カメラにより、待合患者の安全にも配慮されています。

近日中に運用開始となりますが、今回のコンテナハウスの導入によって、感染拡大の防止や院内感染の予防につながると期待しています。



発熱患者の待合室となるコンテナハウス

災害拠点病院 施設整備工事について

当院は、平成24年3月に徳島県から地域災害拠点病院に指定されました。日本DMAT隊員を中心に南海トラフ巨大地震等の災害発生に備えるとともに、実際に災害が起こりDMAT派遣要請があれば、出勤し活動を行ってきました。

近年、平成28年の熊本地震、平成30年の7月西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震等、これまでに経験したことのないような災害が次々と起こっています。現地のインフラに支障を来し、診療にも多大な影響があったようです。

そのような状況下であっても被災地の災害拠点病院が十分に機能するため、令和元年7月に厚生労働省より災害拠点病院指定要件の一部改正が通知されました。施設面での大きな改定は以下の2点です。

① 非常用発電機の燃料確保について

従来は都市ガスのように供給される燃料や、協定等により燃料が確保されていれば良いとされていたものが、自施設に3日分程度の燃料を備蓄することと明示されました。

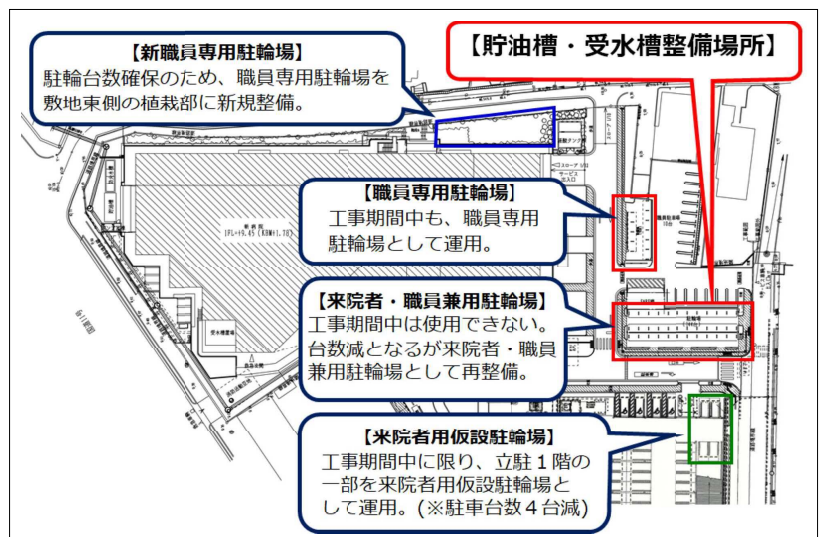
② 水の確保について

従来は具体的に示されていない保有水量について、少なくとも3日分の病院機能を維持するための水を確保することと明示されました。

この2点について、当院の現施設では指定要件を満たせないため、今年度、施設整備工事を行うこととなりました。

敷地南側の駐輪場を解体（一部再整備）し、地下埋設貯油槽及び据置型受水槽を整備します。整備完了後、備蓄燃料は10,950リットルから21,950リットルに、保有水量は300トンから444トンに増加します。工事に伴い減少する駐輪場は、敷地東側の植栽エリアに新設し、対応します。

業者決定後、速やかに工程を決定し、今年度末竣工予定で工事を進めてまいります。工事に際して、ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。



新任医師紹介



放射線科 主任医長
古谷 俊介 先生

放射線治療を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

内視鏡・内科一般の知識技術を習得できるよう、励みます。



内科(消化器)後期研修医
岡田 明子 先生

PCR検査機導入

国の新型コロナウイルス感染症対策の1つとして、検査体制の強化が図られる事になりました。当院でもPCR検査機器が導入され、今年度中には6施設に同機導入予定となっています。処理能力は、1度に最大4検体まで測定可能です。（測定に入ると追加検査は不可）

測定時間は、前処理を含めると約2時間です。運用としては、以下を対象に検査していく予定です。

- ① COVID-19抗原定量検査が判定保留の場合
- ② COVID-19抗原定量陰性だが強く感染を疑う場合
- ③ 無症状者(当院では耳鼻科OP患者)

新型コロナウイルス感染防止のため 面会禁止のおねがい

以下の場合を除きます。

- ・ 入退院時（原則1名）
- ・ 病院が来院をお願いした場合
（手術、治療後に面会が必要な場合、病状説明など）

- 1Fロビーでの面会も禁止といたします。
- 患者さんにお荷物を届けることができるのは、入院時だけとなります。
- 入院後、患者さんからのお荷物をご家族にお渡しすることも原則できません。

※ただし、入院生活にどうしても必要な物品がある場合は、当院からお願いしてお持ちいただく場合がございます。

新型コロナウイルス感染予防のため、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

研修医日記

初期研修医2年目 吉田 知哉



研修医2年目になる、吉田知哉と申します。徳島市民病院で初期研修を始めて、はや1年半が過ぎました。

自分自身の医師としての成長は、何も分からなかった頃と比べれば、右か左かがやっと分かるようになってきたといった微々たるものでしょう。だからこそ、日々の研修を大切に、学んでいきたいと思えます。

私はこの徳島で生まれ育ち、26年になります。小、中、高、大学といずれも見知った友人たちに囲まれた環境で、過ごしやすい反面、非常に狭いコミュニティで生活していたと思えます。

医師として働き始めて、多種多様な背景を持った患者様と接することで、そのことを強く感じました。今後も患者様を通して学ぶことは多いと思えますが、一つ一つ自身の糧にしていきたいです。

大学を卒業してすぐの頃は、特に何の考えもなく、今後の目標や専攻を希望する科なども、まったくない状況でした。しかし、市民病院で研修をすることで初めて、自分の目標とする人物、専攻したいと思う科を見つけることができました。

この場所で、素晴らしい先生方と出会えたからだと思います。市民病院で研修をして本当によかったと感じることの一つです。

研修期間も、残り半年程度となりました。初期研修が終わった後はまた大学に戻って、後期研修医としての生活を始めることとなります。これからも今まで通り、1日1日を大切に、自身の学びにつなげていきたいと考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

初期研修医2年目 村上 尚哉



市民病院初期研修医2年目の村上尚哉と申します。去年の4月から、市民病院で初期研修を始めました。

その研修期間もいつの間にか、残り5か月ほどとなってしまっています。「あと5か月しかないのか」といった名残惜しい思いが強いです。

これまでの研修を振り返ると、三宅院長がおっしゃる「研修は楽しく、だが厳しく」を実践できたのではないかと思います。同期の研修医、指導医の先生方、コメディカルの方々など、皆様のおかげで楽しく研修ができていると日々感じています。

自分に至らぬ点があり、ご迷惑をおかけすることもありました。しかし、その際も周りの方々のサポートを受けて自ら学ぶことを見出し、今後活かすように心がけています。

自分にとって、市民病院は「身近な病院」でした。自分自身も何度か体調不良の際に診ていただいたことがあります。医師として長年勤務していた父も、市民病院のことを深く愛しており、家庭でよく職場の話をしてくれました。

このような経緯から、市民病院に対する愛着が昔からあり、初期研修医をさせていただくことになりました。これまで何度もお世話になった市民病院ですが、初期研修を通して、さらにお世話になったと感じます。この場所で学んだことをこれからの医師としての仕事に活かし、一人前の医師となり、いつか市民病院に帰ってきて恩返しできることを夢見ています。

来年度は、徳島大学呼吸器膠原病内科に入局して、後期研修を行う予定です。あと5か月ほどの短い間ですが、よろしくお願いいたします。